

館山市情報提供
令和元年7月3日
企画課：池田、博物館：宮坂
TEL：22-3163・23-5212

千葉大学との連携による「万祝グッズ」完成・販売スタート

～文化財を活用・ふるさと納税の返礼品にも～

千葉大学デザイン文化計画研究室（植田憲 教授）は、館山市立博物館所蔵の「万祝」型紙（千葉県指定有形民俗文化財）を活用したオリジナルグッズを製作しました。

市立博物館本館で6月から販売を開始したほか、“渚の駅” たてやまでの販売や、市ふるさと納税返礼品への登録も予定しています。

【右の写真】

- ・箸セット（500円）
- ・クリアファイル（各300円）
- ・サコッシュ（各1,500円）



館山市は、平成27年度から千葉大学の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に参加しており、千葉大学デザイン文化計画研究室と連携して、文化財（仏像・万祝等）のデジタルアーカイブ化や取得データの活用に取組んできました。

【取組の例】

- ・研究室の学生が中心となり、市立博物館が所蔵する漁師の晴れ着「万祝（まいわい）」の型紙を撮影し、そのデータを活用したバッグや文房具などの試作品の製作・販売や展示等を行った。
 - ・昨年度は、市立博物館が開催した収蔵資料展の関連事業として、藍染体験イベントの実施や試作品の販売、さらには、市図書館が配布した本の福袋に「万祝スタンプ」を使用するなど、活用の幅が広がりました。
 - ・ベリンハム市（米国）との姉妹都市締結60周年を記念して、万祝データを活用したトートバッグを製作し、記念品として両市の関係者に贈呈した。
- ⇒ これらの実績を踏まえ、市と研究室では、継続的に販売できる方法を検討した結果、市立博物館での委託販売を行うとともに、“渚の駅” たてやまでの販売や市ふるさと納税返礼品へ登録することを決めました。

【館山市・千葉大学デザイン文化計画研究室コメント】

- ・万祝グッズを通して、伝統的なデザインを身近に感じてもらいたい。また、万祝はめでたい図柄なので、贈答品や縁起物としても利用していただければうれしい。
- ・COC+事業は今年度が最終年度だが、万祝は館山を含め、安房地域の貴重な文化財であり地域資源なので、今後は地域の事業者との連携の輪を広げながら、事業を継続していきたい。
- ・文化財のアーカイブ化も重要な課題となっているので、文化財所有者等と協力しながら進めていきたい。

■本件に関する問合せ／COC+・ふるさと納税について：館山市企画課 ☎0470-22-3163
市立博物館での販売について：館山市立博物館 ☎0470-23-5212

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」について

（1）概要

- ・ 大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としている。
- ・ 平成27年3月に公募を行い、全国の大学等から56件の申請を受け、審査の結果、42の大学が選定された。
- ・ 事業期間は平成27年度～平成31年度（令和元年度）の5か年。

（2）千葉大学が採択された事業内容

【事業名】

- ・ 都市と世界をつなぐ千葉地方圏の“しごと”づくり人材育成事業

【事業コンセプト】

地域産業イノベーション人材の育成

- ・ 首都圏に近く、成田空港を有する立地を活かし、都市の研究シーズを千葉に集約させ、地方に還流し、地域産業にローカル・イノベーションを興す「地域産業イノベーション人材」を育成する。

地方創生先進モデルの提案

- ・ 海と山に囲まれ、都市と農村が共存する千葉県は「日本の縮図」ともいえ、本事業が人口減少課題に直面する日本の地域創生先進モデルとなることを目指す。

【事業目標】

若者の就職率向上

- ・ 事業協働地域における就職率を3%（H26年度）から13%（H31年度目標）に向上させ、そのうち1割を雇用創出等によるものとする。

（3）事業の協働体制

【参加・協力大学等】

- ・ 敬愛大学、千葉工業大学、千葉科学大学、聖徳大学短期大学部、木更津高専、放送大学、城西国際大学、日本大学生産工学部

【参加自治体】

- ・ 千葉県、銚子市、館山市、木更津市、東金市、勝浦市、鴨川市、君津市、南房総市、山武市、いすみ市、芝山町、横芝光町、長柄町、御宿町

【参加企業等】

- ・ 日本政策金融公庫、千葉銀行、京葉銀行、千葉テレビ、千葉日報、成田空港活用協議会